

VII. Digital Humanities 2010における ポスターセッションの報告

堀正広

Digital Humanities (以下 DH と略す) は、Association for Literary and Linguistic Computing (ALLC、欧州)、Association for Computers and the Humanities (ACH、北米)、Society for Digital Humanities/Société pour l'étude des médias interactifs (SDH/DEMI、カナダ)の3学協会が構成する傘組織 ADHO によって主催されている。DH は、人文科学の分野におけるコンピュータ利用の研究に関する国際学会で、年に1度世界の様々な大学で開催されている。今年は、7月7日(水)から7月10日(土)まで、英国のロンドンにある King's College London (略称 KCL) で開催された。大会組織委員長は Centre for Computing in the Humanities の所長、Harold Short 教授である。KCL はロンドン大学を構成するカレッジの1つで、1829年に設立され、イングランドでは4番目に古い大学である。今年は“Cultural expression, old and new”というテーマのもと、開催前日に7つのワークショップがあり、期間中2つの講演、400以上の研究発表、そして約40のポスターセッションが行われた。講演は the Council on Library and Information Resources の会長である Charles J. Henry 教授と UCL の Melissa Terras 準教授によって行われた。

われわれの *Dickens Lexicon Project* はポスターセッションに参加した。タイトルは“The *Dickens Lexicon* and its Practical Use for Linguistic Research”で、堀正広、田畑智司、今林修、西尾美由紀の4名の名前で応募した。応募の理由は2つあった。1つは、われわれが取り組んでいるプロジェクトに対する海外の学者からの評価である。もう1つは、今後プロジェクトを進めていく上での、新たな機能や知見を得ることにあった。応募に際してはあらかじめ審査が行われた。昨年10月に応募して12月に結果をいただいた。4人の審査員による100点満点の評価でそれぞれ Review 1 が62点、Review 2 が74点、Review 3 が67点、Review 4 が35点だった。Review 4 の35点は低い評価だったが、平均点は59.5点で合格ラインに達する点数だった。高く評価された点は、山本博士の6万枚に及ぶカードをデジタル化しさまざまな機能を搭載したこれまでにない *Lexicon* の作成に対してであった。低い評価は、完成後の言語研究への具体的な貢献が明確ではないという点であった。

われわれのポスターセッションのコンセプトは、*Dickens Lexicon* 作成の経緯と現状そして、完成図を提示することだった。いわば、*Lexicon* の過去・現在・未来を示すこと

だった。このコンセプトをもとに、ポスターセッションの経験もある田畑智司講師が作成した。ポスターのサイズは最大 A0 サイズで 841 x 1189 mm だった。完成したポスターは縦に 3 分割され、左から、*Lexicon* 作成の経緯と現状と完成図が写真、図、文字とバランスを考えて作成された。

ポスターの展示に際しては多くの訪問者があり、さまざまな質問と意見を頂戴した。主なものは、山本博士の業績、完成の時期、現在の進捗状況などであった。興味深かったのはドイツの文学者ゲーテの *Lexicon* を作成しているという研究者との意見の交換であった。思い出されるのは、2 年前の 2008 年に英国の Sheffield で開催された国際文体論学会 (Poetics and Linguistics Association) で、今林講師が *Dickens Lexicon* について発表した時も Emily Dickinson の *Lexicon* 作成の代表者であるアメリカ人の研究者からの発言があったことである。この人物は Brigham Young University の Cynthia L. Hallen 教授で、ご自分たちの *Lexicon* に言及しながらも、われわれの *Lexicon* 作成のプロジェクトが故人の遺志をついで多くの研究者が携わっていることに感動され、少し涙ぐんでおられたのが印象的だった。Hallen 教授たちの *Lexicon* はすでに完成され、一般公開されている (<http://edl.byu.edu/>)。Dickinson の 1,789 の詩に使われている語の中から 9,275 の見出し語のもと、詳細な定義と用例が挙げられている。このように我々と同じように他の国々の研究者も *Lexicon* 作成に尽力しているということを知ることは大変勇気づけられた。

本学会の最後に Fortier Prize (最優秀若手研究発表) の受賞者発表と最優秀ポスターセッションの発表があった。驚いたことにわれわれのポスターである “The *Dickens Lexicon* and its Practical Use for Linguistic Research” が最優秀ポスター賞に選ばれた。この受賞は本学会の重鎮であり、日本人で唯一の本学会の ALLC の運営委員である田畑講師のデザイン力に負うところ大であるが、山本博士が構想されていた *Dickens Lexicon* の完成は世界の一流の学者からも容認されたことの証でもあると受け止めたい。

未完成の *Dickens Lexicon* を世界に提示することに関しては当初危惧の念があったが、さまざまな研究者とのやり取りや最優秀ポスター賞にまで選ばれたことで DH2010 に参加してよかったと今では思っている。ただ、これからが完成に向けての本当の意味で正念場である。皆さんと共に完成に向けて邁進したい。

参考文献

秋元実治『文法化とイディオム化』東京：ひつじ書房、2002.

秋元実治(編)『コロケーションとイディオム—その形成と発達』東京：英潮社、1994.

- Benson, L. D., ed. *The Riverside Chaucer*, 3rd ed. Boston: Houghton Mifflin, 1987.
- Cowie, A.P. (ed.) *Phraseology*, Oxford: OUP, 1998. (南出康世・石川慎一郎 (訳) (2009) 『慣用連語とコロケーション』, 東京: くろしお出版)
- Dickens, Charlrs. *Hard Times*, The Oxford Illustrated Dickens. London: OUP, 1966. (山村元彦、竹村義和、田中孝信共訳 『ハード・タイムズ』 東京: 英宝社)
- Dickens, Charles. *Our Mutual Friend*, The Oxford Illustrated Dickens. London: OUP, 1966. (田辺洋子訳 『互いの友』 東京: こびあん書房、1996)
- Eighteenth Century Fiction on CD-ROM* (1996) Cambridge: Chadwyck-Healey Ltd.
- The English Hexapla*. London: Library of Congress Cataloging in Publication Data, 1975 rpt. of the 1841 Edition Published by Samuel Bagster and Sons.
- Fraser, B. “Idioms within a Transformational Grammar”, *Foundations of Language*, 6: 22-42, 1970.
- The Holy Bible: New Revised Standard Version*. New York & Oxford: OUP, 1989.
- Inaugural Addresses of the Presidents of the United States*. Washington, D.C.: U.S. G.P.O.: for sale by the Supt. of Docs., U.S. G.P.O., 1989. Available online: <http://www.bartleby.com/124/> [Last accessed: 17 September 2010].
- 地村彰之「チソーサーの酒と『カンタベリー物語』—ワインとエールを中心に—」水田英実・山代宏道・原野昇・中尾佳行・地村彰之著『中世ヨーロッパの祝宴』広島: 溪水社、2010.
- 梶井迪夫訳『完訳カンタベリー物語』東京: 岩波書店、1995.
- Michiels, A. “Idiomatcity in English,” *Revue des langues vivantes*, 43/2:184-99, 1975. *The Revised English Bible*. Oxford & Cambridge: OUP & CUP, 1989.
- Nineteenth Century Fiction on CD-ROM* (2000) Cambridge: Chadwyck-Healey Ltd.
- 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎編『英語コーパス言語学: 基礎と実践改訂新版』研究社、2005.
- Scott, M. “Comparing corpora and identifying key words, collocations, frequency distributions through the WordSmith Tools suite of computer programs,” In Chadessy, M., Henry, A. and R. L. Roseberry (eds.) *Small Corpus Studies and ELT: Theory and Practice*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, 47-67, 2001.
- 新改訳聖書刊行会『聖書新改訳』東京: 日本聖書刊行会、1973.
- Siemens, R. and D. Moorman *Mind Technologies: Humanities Computing And the Canadian Academic Community*. Calgary, Alberta, Canada: University of Calgary Press, 2006.
- 田畑智司「歴代米国大統領就任演説の言語変異-多変量アプローチによるテキストマイ

ニング-」 『英語コーパス研究』 (英語コーパス学会) 第17号: 143-159, 2010.

Yamamoto, Tadao. *Growth and System of the Language of Dickens*. Osaka: The English Philological Society of Kansai University, 1950 (広島: 溪水社、2003 3rd).

(大阪大谷大学英文学会 『英語英文学研究』 第38号、2011年3月10日発行)